

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営 1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>法人の理念として、「安心して暮らせる社会作り」を掲げており、開設より地域の方々との交流を図れるよう取り組んでいる。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>日々掲げている理念に基づき、利用者一人ひとりに焦点を合わせたケアに取り組んでいる。</p>	<p>理念をもっと自分のものとしてすべてのスタッフが取り組んでいけるように社内研修での学びや日々の学びを形にしていきたい。一人ひとりのスタッフの思いをもっと聴けるように取り組んでいきたい。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>	<p>毎月のご家族宛のお手紙や、地域運営推進会議などで常時お伝えしている。また町内の催しにも、お年寄りと一緒に楽しみとして、ご家族に参加していただいている。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>お年寄りとの散歩の際、いつも話をしてくれる方やお花を下さる方など、毎日の生活の中での交流ができています。開設当初より、地域の方に話しかけていただけるように、オープンな雰囲気でもた、認知症のことについて困ったときはご相談をうかがうように取り組んでおり、ご近所の皆様にも受け入れられている。</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町内の催し物にはできるだけ地域の一員として参加している。また地域の皆様にも開設より時間をかけてご理解いただいている現在、行事に参加することを喜んで迎えていただいている。</p>	
6	<p>事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>町内での認知症についての講演や、認知症についての取り組みに参加させていただいている。また常時何かご相談があれば伺っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>評価を通してホームの運営に日々活用している。また、日々の見直しに役立てている。</p>	
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>地域の方々にホームの状況をご理解いただき、ご協力をいただける体制を作っている。また地域の方が困っていることや、認知症ケアに望むことなどをうかがう中で、ホームの生活やサービスについて振り返り、サービスの向上に役立てている。</p>	
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>率先して市との連携を図り、市全体の高齢者施策に対しての働きかけを社長が行っている。</p>	
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>必要のある方には制度の説明をし、ご活用いただけるよう働きかけている。また、人権、権利擁護についての社内研修、外部研修を活かし、知識を深めより良い暮らしを送っていただけるよう取り組んでいる。</p>	
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>社内での研修で、虐待について(虐待とはどういうことか、人権とは、本人にとって権利が侵害される状況とはなど)学び、日々努めている。</p>	
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>重要事項説明書で必ず説明をし、疑問点については必ず解決できるよう対応している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族に対しては、随時、国保連で苦情を受けていることをお伝えしている。また家族ノートという双方のコミュニケーションを図るためのものを、来訪された際にお渡しし、苦情や希望などをご記入いただくようお願いしている。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	来訪時にケアプラン、記録を開示している。また月に一度ご家族にホームの状況をお手紙でお伝えしている。さらに、必要に応じてお電話やお手紙FAXなどで連絡をこまめにとっている。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族へ、外部に苦情を言えるよう、国保連の連絡先のチラシをお渡ししたり、ポスターを貼りお伝えしている。またご本人からの訴えは記録し、カンファレンスを行い改善に向けて取り組んでいる。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	できるだけ意見を聞いている。またユニと会議を定期的開催し、意見を出し合いホームの運営に反映している。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	必要に応じてケアが充分行き届くよう、スタッフの体制を整えている。また必要なケアについての話し合いを行い、柔軟に対応している。ご家族の要望にできるだけ対応している。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	必要最小限にし、ダメージが少なくなるよう取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>		
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>		
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご相談を受けた際、現在はどのようなサービスを受けているのか、どのような生活を送っており、どのような困難なことがあるのかなどを伺っている。必要があれば、そのときに必要なサービスのアクセス方法をお伝えしている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	何度かご自宅を訪問し、管理者、来訪したスタッフが本人と面談し、利用前にお話を伺っている。また、必要に応じホームに遊びに来ていただき、どのような雰囲気か感じてもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	職員は、本人のそれまでの経験や慣れている仕事、人生で培ってきた知恵を教えていただいたり、感じながら互いに支えあい暮らしを築いている。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	本人に対するご家族の思いを取り入れ、教えてもらっている。またホームの行事やホームでの皆さんの暮らしを、ご家族でしかできないことがたくさんあるので、それをお伝えしながらご協力いただいている。様々な思いの中で、ここでの暮らしを支えてくださっていることを十分に理解できるようお話を伺っている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ご本人、ご家族が互いにどのように思っているのかを伺い、ケアプランを通してお互いの思いが通じるよう取り組んでいる。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご友人や親戚の方が来訪しやすいように、キーパーソンの方にも状況をお伝えし、連絡をしていただいたり、ご本人が連絡を取りたいとの希望がある際キーパーソンの方ともご相談のもと、連絡をとってもらっている。ご本人が忘れてしまっている場合、親しかった方の写真を見てもらったり、伺っているエピソードなどをお伝えしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	他者と係わり合いが持てるよう、同席してもらい、会話の仲介に入ったり、何かの作業をともにしてもらおう中で、共感できるような場を作ったり、同じような思い出を話し合えるよう触発している。		
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	必要な方に対しては継続的に行っている。また、退去の際には必ず情報提供を行い、十分な申し送りを行い、ご本人のこれからの生活が困らぬよう取り組んでいる。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケアプランを通して、アセスメントの見直しの際必ずご本人の意見を中心にまとめている。また、ご本人が具体的にいえない場合、ご家族から伺っている。		
34 これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居の際、必ずご家族からそれまでの情報を伺いまとめている。以前にサービスを受けている場合、サービス提供事業者から情報を得ている。		
35 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	朝の申し送りの際、一人ひとりの状況(身体、精神、ご家族、アセスメントしたいこと)を知り、一日のケアを進めている。また、スタッフに周知徹底したい事項については、カンファレンスノート、スタッフノートに記載し、スタッフ全員がわかるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	定期的に会議を開き、ケアプランを見直している。また、職員それぞれの立場で情報を収集し、ご本人、ご家族、職員とでケアプランを作っていけるよう取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	慎重に見直しをかけ随時ケアプランの作成をしている。必要に応じて様々な関係者から情報を収集している。特にご家族とはご本人の思いを充分汲んだケアプランとしていくため、密に連携をとっている。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の記録にその日の状況や、気づきを記録し、次の支援につなげている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	その時々々の、その方の状況に応じて、グループホームが持つ力を総動員している。その方を十分に支援していくために必要な事柄を、しっかりとご本人ご家族とも、お互いに話し合い、方向を決めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域の方に、ホームの取り組みや思い、お年寄りのことなどをご理解いただけるように、様々な機会を通して接していただく取り組みをしている。例えば、地域運営推進会議より、地域の各町内会の機関へ働きかけたり、防災訓練を通して、消防とも連携している。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	本人の状況から、支援に必要な事柄があれば、必ず連携をとっている。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域運営推進会議を通して、地域包括のケアマネジャーとの連携は随時かかっている。また、管理者が地域のケア連絡会に参加する中で、地域のケアマネジャーとの連携を図り、本人にとって必要な支援をなすことができるよう図っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	主治医に24時間いつでも対応してもらえるような体制を整えている。また、看護師を管理者としているため、常時相談や手当てを必要に応じて行うことができる。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	主治医が認知症に理解があり、必要に応じての対応を行っている。また、必要に応じ、精神科の医師とも連携をとっている。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	事業所として看護職員を確保している。常時、利用者の様子を報告し、相談したり、手当てをすることをすみやかに行うことができる。また、かかりつけのクリニックの看護師も24時間で相談に応じてくれる体制があり、日常の変化や相談事などにも応じてくれる。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	常時情報交換をしており、連携を図っているため、速やかに対応している。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入所時に、終末期についてご家族と(お話が可能であればご本人も)話し合いを持ち、ご本人・ご家族の意向をうかがっている。また、ホームとしての対応や主治医との連携などについてもご説明している。状態に応じて、その都度話し合いを設けている。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	終末期を迎えるにあたり、話し合いを常に設けている。また、何が必要であるかを常に考え取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>入居する際は必ず管理者、またはホームの者が家庭訪問を行い、情報収集をしている。また、グループホームを利用している際、関係者で話し合いの場を設けている。退去する際も同様に、次のサービス機関、ケアマネージャーと話し合いや情報提供を行っている。</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>情報管理は徹底している。記録などはキーパーソン以外にはキーパーソンが許可するか、大概是開示していない。また、記録を保管している場所も他の人に目に付かぬように保管している。一人ひとりに対して尊厳の意を持ち対応するよう努めている。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>本人のしたいことができるように、カンファレンスを行い、ケアプランを通して実行できるよう努めている。その中で、自分で決断したり、決定したりできるように、言語でのコミュニケーションが難しい方は観察を、コミュニケーションを図れる方には話ができるような状況を作り、本人の思いをくめるように工夫している。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>できるだけ、本人の希望に沿うように努めている。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>それぞれの好みに合った身だしなみやオシャレができるように取り組んでいる。具体的にご家族がご本人の過去の好みに応じた衣類の準備をしてくれたり、ご本人に選んでいただいて着用している。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>入居者同士の座席の工夫や、それぞれの今の食事の好みを反映した食事の提供を行い、みんなと一緒に食事を楽しめる環境を整えている。また、準備や片付けは本人ができることをできる範囲で行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	本人が飲みたいもの、食べたいものの傾向を知り、できるだけ自分で選択したり、自分で言えるよう促し、提供している。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	本人のパターンを掴み取り、できるだけ失敗のないようにしている。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	できるだけ本人の希望に沿い提供している。また、日数や体調を見ての入浴を行っている。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	本人のリズムを観察し、体調に応じて休息している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	昔から慣れている作業を行ったり(料理の下ごしらえ、おもちゃつき、掃除)それぞれの趣味を行ったり(百人一首、カラオケ)ドライブに出掛けたりなど、できるだけ本人の望みを具体化できるように取り組んでいる。		
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人の必要に応じて支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩やドライブなど、一人ひとりに合わせて出掛けられるように支援している。		より一人ひとりにあわせ、誰と行きたいか、どうしたいかをもっと具体的に実現していきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	本人の希望に沿い、ご家族やご友人のご協力の下行っている。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	本人の希望や、今の状況からできること、わかることで判断し、通信ができるように支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	居室や共有空間が過ごしやすいように整頓をしているまた、ご来訪時に最近の本人の様子をお伝えしたり、本人が戸惑うことがないよう、仲介にはいたりなどする。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指 定基準における禁止の対象となる具体的 行為」を正しく理解しており、身体拘束を しないケアに取り組んでいる。	身体拘束についての認識を深め、具体的なケアの場面で行わないようにしている。		研修などでも学んでおり、認識は深まっているが、より一つ一つの言葉や 仕草動作などにも認識を深めていきたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄 関に鍵をかけることの弊害を理解しており、 鍵をかけないケアに取り組んでいる。	充分理解し、取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	どこで、誰がどのように何を感じ過しているのか、スタッフ間で連携をとり把握し、事故のないように配慮している。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	一人ひとりの状況に合わせて、必要な物品をご家族とも相談し管理している。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故に対応するためのマニュアルがあり、対応について学んでいる。また、そういった状況になったらどうするかを考え、ケアにあたっている。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	マニュアルに則し、その場になったらどうするかを、具体的に考えケアを行っている。		具体的な対応について、実際行ってやってみることを繰り返し行う必要有。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	町内の方との関係は日々の散歩などにより馴染みになってきている。地域運営推進会議に参加されている町内の役員の方をはじめ、ご近所の方にも、災害時の協力を得られる体制が整えられている。		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	一人ひとりのご家族と起こりうるリスクについて、ケアプランを交え、お話している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日の介護の中で、ちょっとした変化に気づいたときは看護師に速やかに連絡をし、適切な処置をしている。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬について理解している。変化があった際、主治医や看護師に連絡している。		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	毎日の排便の確認、便秘のための服薬はもちろんのこと、食事内容や水分量、運動などの工夫を生活の中で取り組んでいる。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	食後の歯磨き、口腔清拭など、一人ひとりの状況に合わせて、清潔を保持している。義歯の適切な洗浄に努めている。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	特に必要な方には、食事内容(一日を通して具体的に)、水分量を記録し、必要量が取れるようにしている。一日で栄養が取れるようにおやつなども配慮している。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗い、うがいの励行。感染症予防のマニュアルに沿った対応を行っている。面会者にもそれに沿った対応をお願いしている。		
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	定期的に漂白洗浄を行っている。また、台所管理におけるマニュアルを作り、清潔・除菌などに努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>		<p>民家の中にある、一般住宅と似た作りのホームであるため、入りやすい外観となっている。また、庭や畑の手入れをし、気軽に立ち寄っていただける環境づくりに努めている。</p>
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>		<p>季節の花を飾ったり、季節に応じた飾りを飾ったり、一年を通して季節を感じられるような工夫をしている。また、過ごしやすいうるさくとなるものの配慮をしている。(テレビの音、光、温度)</p>
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>		<p>一人ひとりが好まれる場所や過ごしやすい場所を、家具の配置や椅子によって工夫し提供している。</p>
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>		<p>今まで本人が使っていた馴染みのある家具などを持ち込んで、以前暮らしていたときと同じような環境を保てるようにしている。</p>
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>		<p>一人ひとりの体調に合わせて、窓の開け閉めや温度、湿度調節を行っている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		<p>今できている方たちだけでなく、一人ひとりにとって楽しみである庭であるよう、促し方の工夫が必要。</p>

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	ほぼ全ての利用者
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	利用者の1 / 3くらい
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	たまに

サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	増えている
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	利用者の2 / 3くらいが
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	家族等の2 / 3くらいが

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

お年寄りの皆さんお一人お一人の持っている力を合わせ、一つの共同体としての連帯感の中で安心を得られている。お年寄り同士はもちろんのこと、お年寄りとスタッフとの支え合いにより生活が日々作られている。年々、地域の中でも認識を深めていただける機会が多くなり、様々な形でのご支援をいただく。今後ホームとして地域に貢献できることを具体的に進めていきたい。